



公共財政・金融システム

通関手続きを効率化し域内貿易を拡大

アフリカ広域 南北回廊における円滑なOSBP運営管理能力強化プロジェクト

円滑な越境に課題

互いに複数の国と国境を接し内陸国も多いアフリカでは、陸上輸送による域内貿易の円滑化が、さらなる発展の鍵として認識されています。しかし、国境を越える貨物の輸送は、それぞれの国で通関手続きを行うため時間がかかっていました。



ザンビアとボツワナをつなぐカズングラOSBP

これを解決するのがワン・ストップ・ボーダー・ポスト(OSBP)です。OSBPは、両国の国境施設を一つに統合したり、入国する国の施設で通関と出入国手続きを1カ所で行えるようにしたりすることで、ヒトやモノの効率的な移動を可能にするものです。東部アフリカでは2022年4月までに13カ所でOSBPが運用されていましたが、南部アフリカでは3カ所にとどまり、かつ他に比べて越境に時間がかかるなどの課題を抱えていました。

そこでJICAは、2020年8月から南部アフリカの主要回廊となっている南北回廊にある3つのOSBPを対象に、国境機関職員の運営管理能力を強化するプロジェクトを行っています。

国境機関職員の能力向上に協力

プロジェクトでは各OSBPの通関所要時間のほか、通関手続きや運営体制などを調査。出入国管理や検疫手続きが国境機関間で重複していると

いった課題が確認されたため、手続きの効率化を目的にOSBP手続きマニュアルを改訂しました。

またこのマニュアルを用いて、国境機関職員の能力向上を目的としたワークショップや研修を実施。2023年2月には、プロジェクトの対象国であるザンビア、ジンバブエ、ボツワナ、南アフリカ共和国の4カ国計20人の国境機関職員が東部アフリカ地域のOSBPを視察し、先進事例を学びました。さらにプロジェクトでは、OSBPをアフリカ全体に導入するうえでの課題をまとめたほか、OSBPの運用に関するガイドラインであるOSBPソースブックの改訂にも協力するなど、その成果は対象国以外にも影響を与えています。

JICAのこうした取り組みは、アフリカ連合開発庁(AUDA-NEPAD)などの地域機関からも、域内統合に資する案件として高く評価されています。

VOICE

協力効果が広がっています

JICA専門家
株式会社パデコ
下村剛史さん



プロジェクトの対象国では、国境機関の職員が学んだ知識やノウハウを自国内の他の国境にも広げるなど、協力効果が広がっています。プロジェクトを通じて、こうした展開が生まれたことは大きな成果です。対象4カ国3つのOSBPの運営管理能力を向上させ、こうした動きを後押しすることで、域内貿易を拡大していきたいと思っています。



ベイトブリッジ国境のジンバブエ側関係者との会議